

「自然と歴史が育む ふれあいと活力のある健康文化都市」の実現に向け、全力を尽くします



宗宮 孝生 町長

私は、新町の将来像として掲げる「自然と歴史が育む ふれあいと活力のある健康文化都市」の実現に向け、「人づくりはまちづくり」の観点から、まちづくり計画の重点プロジェクトである地域情報・道路・公共交通の3つのネットワーク整備と教育、文化、福祉の向上を掲げて、町政運営に取り組んでまいりました。

国の予算は三位一体改革を推進し、歳出全般にわたる徹底した見直しが行われ、一般会計歳出についても厳しく抑制を図られております。

また、地方財政対策においては、地方税収入が回復傾向にある一方で、公債費が高い水準で推移することや、社会保障関係経費の自然増等により、依然として大幅な財源不足が生じるものと見込まれます。

こうした国の厳しい財政状況を踏まえ、本町においても健全財政という基本理念を堅持しつつ、財源の確保に努め、諸経費の抑制を図る一方で、厳しい状況の中でも重要施策には積極的に予算を配分することにより、実のある予算編成に努めてまいりました。

また、行政サービスを提供することによる住民の皆様の受益と、それに伴う負担の関係を更に認識したうえで、町政を推進していくことが必要と考えております。そのためには、住民の皆様にご利用が以上に町政に参画いただき、課題を共有しながら協働でまちづくりを進めていくことが必要不可欠と考えます。

「合併まちづくり計画」「過疎地域自立促進計画」等の基本目標・基本計画に基づきながら、平成18年度における主な事業についてご説明します。

【重要施策】

・「地域情報ネットワーク」の整備

テレビのデジタル化が目前に迫る中、従来の放送をはじめデジタル放送の安定した受信、BSやCS放送など多彩な番組、また、インターネットとデジタル放送の組み合わせにより、双方向の情報サービスができるよう、光ファイバーによる放送通信ネットワークの整備を、本年度から2年間の継続事業として実施します。

・道路ネットワークの整備

近い将来、近畿圏、北陸圏への新たな玄関口として、人や物が行き交う交流の盛んな地域へと変わっていくためにも、一般国道303号、417号、大規模林道・関ヶ原八幡線の整備促進を図ってまいります。また、岐阜圏域や大垣圏域へのスムーズなアクセスを可能にするため、都市計画道路の整備、観光交流拠点ネットワークする県道山本東線、春日掛斐川線及び一般県道の整備を促進

します。

・公共交通ネットワークの整備

高校生や通勤者などに配慮した地域の重要な足として、近鉄掛斐線と樽見鉄道の利便性向上と利用促進を図るとともに、住宅建築の促進を含めた新町の玄関口でもある近鉄掛斐駅周辺の整備計画や幹線交通機関としての路線バスの体系等の見直しなどを含め、住民の皆様が利用しやすいバスの運行を目指します。

また、福祉バスなどのコミュニティバスは支線交通機関として活用を検討し、住民の皆様とのニーズに合わせ、生活の身近な足としての機能を高めるよう、今後ネットワークの拡大を図ってまいります。

・その他（福祉、教育、文化、観光、環境）

少子化対策事業として、昨年10月から実施しました小学校卒業までの児童医療費の助成に加え、「すこやかベビー祝い金」を掛斐川町全域に拡大し、不妊症治療助成事業など、福祉の充実を図ります。学校整備として掛斐小学校・谷汲統合小学校建設事業、地域に根ざした教育を目指す、学校提案型教育推進事業、特色ある地域づくり事業、小・中学校郷土副読本として、掛斐川の祭りや踊り調査事業、西美濃天文台移設事業などにより教育の振興を図ります。観光事業として、藤橋温泉整備事業、谷汲門前街景観整備基本計画策定事業などで観光の振興を図ります。その他アスベスト除去対策経費、徳山ダム公有地化推進事業の予算を計上させていただきました。

【主要施策】

現在策定中の第1次総合計画の基本目標に沿いながら、平成18年度の施策についてご説明します。

1. 「人と自然が共生するまちづくり」

美しい自然環境を次世代へ継承するため、町全体の森林環境の保全活動を推進し、特に徳山ダム湖周辺は、広葉樹の植栽など、貴重な動植物が生息し続けることができる自然環境づくりに努め、公有地化推進事業を進めてまいります。

また、環境への負担を軽減するため、公共下水道の整備や農業集落排水事業、合併浄化槽の設置など、地域の実情に応じた適正な生活排水の処理を計画的に整備・支援してまいります。さらに、循環型社会の構築に向けて、住民、事業者、行政の協働による廃棄物の減量化、資源化を促進するよう、生ごみ処理機の設置、住民や各種団体による地域や家庭のごみの減量化、再資源化、環境美化活動等を引き続き支援してまいります。

東海地震、東南海・南海地震、直下型地震をはじめ、大雨による河川氾濫・土石流、大雪などの自然災害による被害を最小限に留め、万が一、災害が発生した場合に備え、罹災者が安心して生活できる体制・環境づくりに努めてまいります。そのため、木造住宅耐震診断への助成、崩壊の可能性の高い急傾斜地や、氾濫の可能性のある河川などの危険箇所を把握し、国・県への要望をしてまいります。また、大震災や土砂災害を想定した防災訓練の実施や、洪水ハザードマップの作

成を行います。さらに防火水槽、消防車庫の設置、消防車両の購入など消防設備等の整備充実にも努めてまいります。

次に、国内外情報を手に入れることのできる情報社会に対応した基盤を整備するとともに、道路環境や水道水など、日常生活の安心・安全の確保に努め、本町に暮らしながら快適に日常生活を送ることができ環境を提供することが重要と考えております。そのため、新たな情報社会に対応できる基盤として放送通信ネットワーク整備事業を実施します。また、老朽水道管の更新、簡易水道及び施設の整備を行い、継続的に安心安全な水道水を各家庭に供給してまいります。

さらに、住民生活に密着した町道、農道、林道の整備、防護柵の整備、除雪事業を行い、年間を通じて安全に走行できる道路環境を提供してまいります。また、岡島橋の架け替えをはじめとする国・県道の整備についても、国・県に強く要望し、国県道、町道、農道、林道のネットワーク整備に努めてまいります。

次に鉄道、バスの利便性の確保について、公共交通機関は地域の重要な足であります。近鉄掛斐線と樽見鉄道の利便性向上と利用促進を図るとともに、近鉄掛斐駅周辺の整備計画、旧名鉄本掛斐駅周辺の整備を行い、路線バスの体系の見直しなどを含め、住民の皆様が利用しやすいバスを目指してまいります。

また、定住化対策として、老朽化が進む町営住宅の整備を行い、質の高い住宅の供給を行います。本年度は北方奥郷住宅の建設を行ってまいります。

2. 「健康で思いやりに満ちた文化の薫るまちづくり」

これからの少子高齢化社会において、

子どもを生き育てることが楽しめる地域社会づくりと、高齢期における不安を解消し、生涯を通じて健康で安心して暮らしていけることができる環境づくりを努めてまいります。

このため、少子化対策の一環として、「すこやかペビー祝い金」を町内全地区へ拡大していくとともに、不妊症の方の経済的負担を軽減するため、特定不妊症治療に要する費用の一部を助成する不妊症治療助成事業を新たに実施します。児童手当については小学校6学年まで支給することになりました。また、小学校卒業時までの乳幼児・児童医療費助成、子育て支援等についても引き続き行っていきます。

高齢化対策・障害者対策としては、制度改正等を見極めながら、高齢者・障害者一人ひとりの状況に応じたサービスを提供し、地域全体で高齢者と障害者の安心を支えていくよう、更に充実した施策等を展開するため、包括支援センターを設置します。

また、健康対策として、予防医療、健康・体力づくり活動等の事業を充実し、健康に対する意識の向上や、健康・体力づくりに関する学習機会を提供してまいります。

さらに、地域医療の水準を高めるために、掛斐厚生病院や診療所をはじめとする各医療機関との連携を高めるとともに、山間部における医療体制の整備を図ってまいります。

また、生涯スポーツや生涯学習活動の推進をはじめ、地域の歴史や伝統文化の継承、いびがわマラソンの充実や、文化財関連事業の整備・保護と、質の高い文化・芸術を鑑賞できる環境を整えるために、文化会館建設に向けての基本構想に

も手がけてまいります。

また、子供たち一人一人が郷土に誇りを思い、相手を思いやる心をはぐくむ指導を行い、家庭と地域、学校とが力を合わせ、心身ともにたくましく豊かな心をもった子供を育てていくために、特色ある地域づくり、学校提案型教育推進事業等を新たに実施してまいります。

さらに、子どもを取り巻く環境が社会問題になる中、通学路における安全性の確保に引き続き取り組んでいくとともに、情報社会における対応力を身につける教育環境を充実するほか、時代に対応した学習環境と魅力ある教育に取り組むため、谷汲統合小学校、掛斐小学校建設を始め、小、中学校施設の整備・改修等を行います。

また、国際化に向け、外国人の英語指導助手による外国語教育や中学生の海外派遣事業、小学生の県外派遣事業を実施し、豊かな国際感覚を身につけた児童・生徒の育成に努めてまいります。

3. 「ふれあい豊かな活力に満ちたまちづくり」

新町は高齢化率の高い地域であるため、高齢者の持つ豊かな経験と生活の知恵を十分に生かし、まちづくり計画の重点戦略である交流産業・健康産業による地域づくりを目指してまいります。

町内に数多く存在する豊かな自然、その自然の恵みを巧みに利用した先人の知恵、長い歴史が育んだ伝統文化などの既存の地域資源と、新たな資源の開発を相互に連携させながら、それぞれの魅力を高めることにより、交流人口の一層の増加を促し、観光交流産業の振興と健康産業の創出を図ってまいります。

このため、様々なイベントの充実、藤橋温泉整備事業、谷汲門前の景観整備事

業等の施策を進めてまいります。また、地域の資源や特性を活かした特産品の研究・発掘、PRする専任体制を新設し、特産品開発等の施策を進めてまいります。

次に、農業振興について、近年農業を取り巻く環境は厳しく、農業者の高齢化や後継者不足等による耕作放棄地や遊休農地の増加が懸念されております。このため、耕作放棄地の防止と活力ある農村集落の維持を図るため、ぎふクリーン農業生産流通総合整備事業等による生産組織の育成及び中山間地域等直接支払交付金事業により耕作放棄地や遊休農地の増加による農地の荒廃をさけるとともに、農地の持つ自然環境の保全、水源涵養、景観形成などの多面的な機能を確保するため、町単・県単・県営土地改良事業、中山間総合整備事業を引き続き実施し、農業基盤の整備や保全に努めてまいります。

さらに、林業振興では森林整備地域活動支援事業等へ補助を行うなど、林業関係者、組織への支援にも努めてまいります。

商工業の振興として、中小企業の経営が依然として厳しい状況下にあることを踏まえ、中小企業融資利子補給をはじめとする中小企業・勤労者支援事業を継続するとともに、工場設置奨励事業、各種の商工会支援事業を実施し、地域経済活動の振興を図ってまいります。

4. 「住民とともに考え、新たな地域づくりを実践するまちづくり」

住民ニーズの多様化が進む中、これからの地域社会は住民自らが考え、自らが望む地域のあり方を主張するとともに、住民自らができることは自らで実行し、住民と行政が協働してまちづくりを進め